



CMOニュース

「生き抜く」

2025年10月
VOL. 295

毎月5日発行

株式会社シーエムオー

経営コンサルタント 川崎依邦

大阪：〒530-0026

大阪市北区神山町 8-1

梅田辰巳ビル 6 階

TEL：06-6367-0150

FAX：06-6367-0151

東京：〒134-0015

東京都江戸川区西瑞江 5-20-2

TEL：03-6808-2010

FAX：03-3878-9432

E-mail：info@cmo-co.jp

URL：https://www.cmo-co.com

大局的には、インフレ続く。物価もまだ上がる。最低賃金も上がる。トランプ関税も本格化する。銀行金利も上昇している。翻って運賃はどうか。車両価格も上昇している。ドライバー不足は相変わらずだ。中小運送業をとりまく経営環境は依然厳しい。どうも不況の風が吹いている。日本の政局も不安定だ。どうなるのか先行きが見えない。

しかもコンプライアンスについて行政に厳しく問われる。点呼はどうか。何よりも労働時間は正しく把握しているか。時間外労働手当は適法か。労災は多発していないか。セクハラ・パワハラはどうか。法的プレッシャーがある。まずもって危機感を持つことだ。生き残り、生き抜いていくことだ。社長を先頭にドライバーが一丸となって、このピンチを乗り越えていくことだ。何をなすべきか。奇手はない。ひたすら一日一日「当たり前の実践」を貫くことだ。「当たり前の実践」とはなにか。「入るをはかって出ずるを制す」の実践である。「入る」とは価格交渉、運賃アップのことである。一台ごと一人ごとに数字を掴む。その上で不採算であれば、運賃アップの適正化に取り組む。もしできなければ、工夫する。撤退も視野に入れる。「出ずるを制す」は経費をとことん切り詰めることである。

例えば、修繕費は合見積りをとっているか。事故を減らしているか。車を大事にし、日常点検をしているか。あるいは、不必要な交際費を使っていないか。地代家賃は減額できないか。そして、コンプライアンス対応である。就業規則、給与規定、雇用契約書をはじめとして、諸規定をチェックし労働基準法に適合しているか確認することである。当たり前のことを直ぐに実践することである。一日一日、やり通すことである。強い気持ちで立ち向かうことである。生き抜くのだと進むことである。

以上

経営者に学ぶシリーズ168-稲盛和夫-

～利他の心で判断する～

会社経営において、利益を追求しなければ、会社の存続・成長や従業員の幸福はありません。

しかし、私たちの心には「自分だけが良ければいい」と考える利己の心と「自分を犠牲にしても他の人を助けよう」とする利他の心があります。会社の存続、従業員の幸福を追求するが為に、どうしても人は利己の心で判断してしまいがちです。利己の心で判断すると一時的に良くても、長続きがせず、長期的に考えると間違った判断になりがちです。

「人に良かれ」という心を持てば、周りの人皆が協力してくれるので、視野が広くなり正しい判断が出来るのです。会社は経営者の器以上には成長しません。経営者が人間力を高める事が、会社の成長への近道です。

繁忙期では車両が見つかりにくく、スポットの仕事であれば運賃はいつもより高くなります。お客様が困っているのを見て運賃を3倍・4倍に出来たとしても、適正価格で仕事をすれば一見損をしたように感じますが、後で必ず双方にとって良い結果をもたらす事になるはずです。

以上



人材教育

ピンチはチャンス

「難病も我にたまいし恵みなり、災い転じて福とならしむ」

この歌は、知的な能力はあるが、運動神経が侵されていく難病 ALS にかかっている患者の作である。ALS 患者 A さん(51 歳)は発病してから 20 年目の心境として、この歌を詠んでいる。A さんは 24 歳の時結婚し、32 歳の時に発病、病気の為妻と離婚。発病し、不治の病 ALS と分かった時、自殺を試みて失敗している。20 年目の心境として、「僕を温かく励まし、支えてくれる人が多かったです。」と述べている。A さんの生き方に触れて私は“ピンチはチャンス”とつくづく感じるものがあった。

A さんは現在、愛媛県の松山の病院で暮らしている。A さん曰く「悲しみを受け止め苦しみを受け入れる時、生きている素晴らしさと尊さを教えられる。」日に日に体力が落ちていく A さん。言葉を発する機能も弱っていく。音声の出るパソコンを使って意志を伝えようとする。口からの食事も出来なくなり、胃から直接栄養をとっている。それでも生きようとする。「失ったものより残ったものを大切にしたい。」とひたすら前向きな A さん。正にピンチである。しかし、このピンチにたじろがず正面から向き合っている姿は、生ということに対して前向きな A さんの生き様であり心に沁みる。「残された時間が限られてきたように思う。ですから今まで以上に時間を大切に使いたいと思います。」

A さんは郷里の三重県名張市に帰郷する。自殺をはかって立ち直りのきっかけとなった教会。その教会で神に祈りをささげる。A さんの目に涙が浮かび滲んでくる。この大ピンチがなければ、このような深い人間的感動を味わうこともなかっただろう。A さんの主治医曰く、「通常 ALS は発病して 5 年でお迎えがきます。A さんは 20 年目に突入しています。目的をもって生きたいという精神力が全てです。」A さんの目的は ALS という病気を社会に知ってもらうことである。その為 A さんは「しんぼう」という手記を発表し、会報を発刊し、「難病を考える会」をつくる。

中小運送業の経営改善 実践事例セミナー

日時

10 月 22 日 (水) 14 : 00 ~ 15 : 30

場所

アンピールホテル大阪(大阪市北区神山町 11-12)/オンライン(Zoom)

受講料

1 名様につき 5,000 円(シーエムオー物流経営研究会会員様は 3 名様まで無料)

講師

(株)シーエムオー 経営コンサルタント 川崎 依邦

【セミナー内容】

【1】経営改善実践事例

【2】「経営改善計画」の策定支援コンサルティングの実践事例

1. 自社の債務者区分を知る
2. 資金繰り表の作成
3. 実態 B/S の把握
4. 「経営改善計画」の作成により金融支援を引き出す

【3】経営改善コンサルティング

【川崎依邦の略歴】

(株)シーエムオー
経営コンサルタント
早稲田大学卒業
昭和 63 年 9 月独立開業
(1990 年 4 月法人設立)
〈資格〉中小企業診断士、
社会保険労務士
認定事業再生士(CTP)



個人経営相談のご案内(HP からもお申込できます！ <https://www.cmo-co.com>)

経営改善計画の作成

事業承継

働き方改革に対応した
給与・人事改革や労務相談

秋の虫

秋の虫で思い浮かぶのが鈴虫やコオロギです。鈴虫は夏の終わりから秋にかけて「リーンリーン」と美しい音色を奏でます。またコオロギも秋に見られる虫で、特にその鳴き声が秋の風情を感じさせます。この鳴き声を聞くと秋が来た合図のように思えます。他にも秋の虫といえば、キリギリスは夏から秋にかけて川原や土手などで昼夜問わず鳴き声を聞くことができます。イナゴは日本では稲を食べてしまう害虫として知られており、秋の収穫時期に多く見られます。秋にも色々な虫がいます。皆さんは秋の虫でどんな虫が思い浮かびましたか。

【問い合わせ先】
株式会社シーエムオー

＜大阪事務所＞ 〒530-0026 大阪市北区神山町 8-1 (梅田辰巳ビル 6 階)
TEL (06) 6367-0150 FAX (06) 6367-0151